

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101003		
法人名	NPO(特定非営利活動)法人 まごころサービス松江センター		
事業所名	グループホーム まごころの家・こしばら		
所在地	島根県松江市古志原5-13-69		
自己評価作成日	平成27年10月30日	評価結果市町村受理日	平成28年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [ex.php?action=kouhyou\\_detail\\_2015\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=3270](http://ex.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3270)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成27年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

まごころの家・さいかが開所して10年を迎えました。古志原5丁目に移転して4年目を迎えたと共に、更に地域に親しんで行こうと、6月にホームの名称を「さいか」から「こしばら」へと変更しました。移転後から自治会活動や地域の行事にも積極的に参加して行く中で自然に声を掛けて下さったり、野菜を頂いたりと以前にも増して交流が深まっています。「その人らしさと共に生きる」「今日が一番 幸せな日」をモットーに職員一丸となってご利用者様本意のケアを追究し、日々努力しております。H24年に最初の看取りをさせて頂いてから今年で6人目の看取りをさせて頂きました。今後も常にご利用者様に寄り添い、ご家族様に信頼して頂けるケアの実践を行って行きたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全職員が理念を理解し、職員が良い日で過ごすことは利用者に良いケアが提供できて楽しく過ごせる、との思いで一人ひとりを把握してその人らしい日々が送れるよう支援している。化粧をして笑顔が出た人、入居後のADLが改善した人、言葉が出た人もあり、家族や周囲の意識が変わり信頼を得ている。職員はスキルが同じくなるよう常勤とし、日々振り返りをしながら協力して笑顔で支援できるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念の基、事業所独自の理念を作り、職員会議等で都度、「理念に基づいたケアを行う」と言う視点で話し合いケアに活かしている。	理念を念頭において、人としての尊厳を大切にし一人ひとりの思いに寄り合い笑顔が引き出せるよう支援している。日々振り返り、話し合いながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として自治会に加入している。毎年恒例になっている夕涼み花火大会に、ご近所子ども達やご家族にも参加して頂いた。夏には地域のカラオケ大会にも毎年参加している。	地域の祭りへの参加や、事業所のイベントに招いたり定期ボランティアの来訪もあり交流を深めている。野菜の差し入れがあったり、散歩の時には気軽に声をかけてもらえる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、ホームでの認知症ケアの取り組みや看取りの報告をし、意見交換や情報交換を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方3名に推進員になって頂き、2ヶ月に1回の会議に参加して頂いています。ホームでの取り組みを報告する中で、貴重なご意見を頂き、職員間で共有しケアに活かしています。	利用者や事業所の様子、活動状況を伝えて意見をもらいながらサービスに活かしている。会議報告書は利用者家族や地域にも配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に運営推進会議の場で報告や相談をさせてもらっている。又、問題が生じた時など市の介護保険課に相談をさせて貰っています。	事業所の活動を伝え、必要な時には相談しながらサービスの向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議にて、外部研修報告や内部研修を行い、話し合いを行っている。日中は玄関の施錠をせず、外出希望を訴えられるご利用者様の対応としては思いを抑制せずに受け入れ、外出支援を行っている。	内部研修や会議でも話し合いをしていて、丁寧な言葉使いや対応を心がけ日々振り返りながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて、外部研修報告や内部研修を行い、話し合いを行っている。お一人お一人の人格を尊重し、常に敬意を持った言葉掛けや態度をスタッフ全員が意思統一し、支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフミーティング内で、制度の内容について冊子を用いて確認、理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前から、ご本人とご家族にお会いする機会を出来るだけ多く持つ様にし、ホームにも可能な限り来て頂く機会を持っている。又、契約に関しても話し合いを多く持ち、納得して頂ける様に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様の言動から、その思いを察しご利用者様本意の運営を心掛け、又、ご家族の面会やカンファレンスに時には意見、要望をお聞きし運営に反映させている。ご家族にもホームの行事に参加して頂いています。	利用者の言葉や家族の来訪時に話を聞き、何でも遠慮なく言ってもらうように伝えている。「帰宅させたい」「車の運転ができない」など、家族の声を聞き状況に応じて支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員が気軽に気付きや意見、提案が出来る様にコミュニケーションを図っている。提案された意見は管理者会議に図り、可能な限り反映させている。	管理者と職員という関係ではなく、同じ志を持つチームとして意見を聞くことに努めている。日常的にコミュニケーションを図り、意見や要望を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通して報告を受け、常時話し合いを行っている。毎月管理者会議を行い、職場環境、条件の整備等についても話し合い改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者を通して都度報告を受けたり、毎月職員会議に参加し、又隔週で昼食を一緒に食べる事で職員一人一人のケアの実際と力量を把握している。外部研修にも積極的に参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に積極的に参加したり、施設見学や実習を積極的に受け入れ、気付きを頂いたり、情報交換を行い、サービスの向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス前から、ご本人様と多くのスタッフが出来るだけお会いし、状態を把握した上で話し合い意思統一を図っている。サービスも都度カンファレンスを行い、ご本人が安心して過ごして頂ける様に務めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的カンファレンスを行い、そこでご家族様の要望等お聞きし、ケアに活かしている。毎月ご家族様へ1ヶ月のご様子をお手紙にして報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態、ご家族の要望等をお聞きした上で、特に訪問看護師に相談したり、場合によっては介護福祉用具業者とも相談したりし、ご本人にとって安心・安楽に過ごして頂ける様に支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の出来る事を把握した上で、その時のご利用者様の状態に応じて思いを尊重し、快く持っている力を発揮して頂ける様な支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ご家族へご本人のご様子を密に報告し、信頼関係を築いて行けるように努めている。外出を希望されるご利用者には、定期的に自宅等の外出をご家族にして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様一人一人の思いを聞きながらご家族と相談し、自宅や生家へ行ったり、電話等を利用して遠方のご家族や、馴染の人との関係作りの支援をしている。	昔の写真を見て話をしたり、以前の仕事に関係する場所に出かけるなど、これまでの生活や人との関わりを大事にして支援している。関わりの中で自然に言葉が出た人もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がご利用者様のその時の状態を把握し、孤立しない様配慮したり、ご利用者同士と一緒に作業出来る様に工夫したり、ご利用者一人一人を常に観察し支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	季節の挨拶の手紙やホームの通信を発送する事で、気軽に相談して頂ける様に関係性を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様との会話の中から暮らし方の希望、意向の把握に努めている。又、ご家族様からの意見も尊重しながら行っている。	日常の会話や表情、行動の変化を注意深く見守り、利用者に寄り添い思いの把握に努めている。入浴時などゆっくりできる場所での関わりを大事にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お一人お一人の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を把握し、少しでも混乱されない様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日を穏やかに過ごして頂ける様に、常に寄り添い、心身の安定に努めている。毎日の生活状況、身体の状況の記録により把握し、新しい情報を共有し一人一人の能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の上で、ご家族様と連絡を密に取り合い、それぞれの意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している。	利用者一人ひとりの状況を把握して、家族の意見を取り入れ皆で話し合い、担当者を中心にして介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事の摂取量、排泄、服薬等記録し、日々の暮らしの経過記録、連絡ノートの活用等により情報を共有している。状況の変化は、介護計画の変更に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅へ帰りたい思いがある方には、自宅への外出支援、誕生祝にはご家族と共に祝いする。入院時には、頻回に面会し病院側と話し合いの上で、出来る介助を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	銭太鼓や民謡クラブなど、ボランティアの方の協力を得て、楽しい時間を持っている。地元の公民館活動にも参加させて頂きながら、安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医と連絡、報告を行い常に連携をとり、必要時には受診支援も行っている。又、緊急時、かかりつけ医に総合病院の紹介も得ている。その他、耳鼻科・皮膚科・歯科等必要に応じて往診して頂いている。	協力医の定期往診やかかりつけ医への受診、必要に応じて専門科医の往診協力もあり、連携して適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約。週1回訪問時、一人一人の状況を報告し、不安な面、異常については詳しく報告、指示を得ている。24時間オンコール体制で緊急時も連携がとれている。点滴をホームで行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、職員が出来るだけ頻回に面会に行き食事介助に行ったり、情報を得たり、ご本人にとっても馴染の顔が見えることで、安心感を持って貰い、早期退院が出来る様、病院内での支援も務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を策定し、ご家族との話し合いの場を持ち、双方で出来る事の確認、方針の確認をしている。必要性が生じた場合は、ご家族、協力医、訪問看護師等と共に話し合い、方針を共有している。	家族や協力医、訪問看護師など関係者で話し合い方針を確認しながら取り組んでいる。夜勤者の不安軽減のためホーム長が立ち寄り、看取りの場面には勤務以外の職員も立ち会い見守っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習会への自主参加を勧めている。スタッフミーティング時には、急変や事故発生への対応について確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導の基、消防訓練を行い、避難訓練等を行った。地震・水害等の災害時の対応と地域との方や消防団の方との協力体制を強化出来る様に検討していきたい。	年2回消防署の立ち会いのもと避難訓練を実施し、早期通報、ADEの使用法の訓練も独自に行っている。備蓄品は地域の人のも含めて準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、常に敬意を持った言葉遣いや態度を意識し対応している。部屋の入口には、のれんを取り付けプライバシーの保護に留意している。	一人ひとりを尊重した言葉かけや対応をして、利用者が納得してから次の行動に移れるようゆとりをもって支援するよう心がけている。「ありがとう」の言葉も伝えるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の思いや希望を日常的に把握できるような声掛け、関わりを心掛け、表出された気持ちを優先している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるものの、それにとらわれずその日の皆様の状況を把握し、臨機応変に取り入れ、穏やかな気持ちで過ごして頂ける事を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回訪問美容師に来て頂き、ご本人様に合ったヘアスタイルをお願いしている。毎朝、お化粧品をして頂き、生き活きとした表情で過ごして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じられる食材を取り入れたり、会話をしたり、又、飲み物・フルーツ等種類を増やして楽しんで頂けるように努めている。	食材の下ごしらえ、盛り付け、味見、茶碗拭きなどそれぞれのできることをしている。職員も同じ食事を食べて会話を楽しみながら和やかな場面作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	夏場の熱中症対策には、特に力を入れてこまめな水分補給を提供して行った。又、水分摂取量の少ない方は、摂取量の記録をとり、スタッフの意識づけを行った。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、義歯磨き、夜間は義歯洗浄剤に浸ける。口腔内に不具合があると思われる時には、早目に歯科医に相談し、必要時には往診して貰っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	見守りが必要な方は、その方の様子や時間を見ながらトイレ誘導を行い記録している。全介助の方も不衛生にならない様に時間を見てパットの交換を行っている。	一人ひとりの状態を把握して、可能な限りトイレでの排泄支援をしている。入居後にトイレでの排泄が可能になった人もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、豆乳を飲んで頂き、又バランスの良い食事を心掛けている。一人一人の様子を把握し、便秘にならない様に坐薬等で排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回を目安に、ご本人の希望とその時の状況によって入浴して頂いている。脱衣場・浴室の温度管理には十分気を付けている。	夕食後に入浴希望する人もあり、一人ひとりの希望に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度管理や、シーツをこまめに洗濯し、気持ち良く休んで頂ける様にしている。一人一人の体調を観察しながら、日中の活動を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬剤情報をファイルし、職員が何時でも見られる様にしている。ご利用者の状態を常に観察して、状態の変化を見逃さない様に職員全員で情報を共有し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一般的な家事活動を中心に、個々の生活歴に合わせた支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外出希望がある時には、ドライブに行くなど速やかに対応している。その日の状況に応じた外出支援も行っている。	希望に応じて近くのスーパーに買い物に行ったり、ドライブに出かけている。言葉で表現できない人にも周辺を散歩するなど外気に触れるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお金をお預かりし、事業所で管理している。個人で財布を管理されている方もおられる。又、外出時には欲しい物をご自分で購入してもらうように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、いつでも電話をかけてもらったり電話での会話が難しい時には、職員が間に入って対応したりして支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事の飾り付けや、ご利用者の作品、写真を飾って安らぎと楽しみのある雰囲気作り心掛けています。又、オープンな台所でいつでも、どなたでも入って来られる様にしており、盛り付けなどの手伝いをして頂いている。	花を生けたり、落ち葉を使った飾り付け、利用者の作品や書、笑顔の写真を飾り生活感、季節感が感じられる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々でテーブルを動かし、おひとりの空間を作ったり、ご利用者様とスタッフの間で会話を楽しんで頂ける空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼット以外は、ご自分のタンスやソファを置いたり、写真やご本人の作品を飾ったりしている。	使い慣れた家具を置き、家族の写真や好みの人形や作品を飾り居心地よく過ごせるような居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所など、ご自分の物が直ぐに分かる様に名前を書いて置いてある。必要な個所に手すりを付けて、安全な歩行が保てるように工夫している。		